

中学校区におけるめざす子ども像	堺市立深阪小学校 校長 日野 伸子
基本的生活習慣を身につけ、表現力豊かな児童・生徒	

令和6年度 重点目標	
主体的に問いを見つけ、ともに解決し、学んだことをつなげる子どもの育成	
「確かな学び」の現状 - 漢字や計算などの基礎的な学力について、平均正答率は目標を概ね達成しているが、高位と低位の二極化傾向がある。 - 授業におけるICTの使用率は上がってきているが、個別の課題に対する活用までには至っていない。 - 自分の意見をノートやワークシートに書くことはできつつあるが、高学年になるにつれて発表したり、意見交流することができていると感じる児童の割合が下がっている。 - 子ども達自ら学びに向かい、ともに解決し、学んだことを人や次の学びにつなげる力を探究的な学びを実践していく中で学校全体として高めていく必要がある。	「豊かな心・健やかな体」の現状 「自ら進んであいさつする」について、児童会の取り組みや朝会での啓発などによってできる児童が増えてきている。しかし、学校内外で場に即した気持ち良いあいさつを行うことに課題がある。感情のコントロールが苦手な児童が多い。 - 清掃活動について、児童の中に重んじる意識が希薄で、活動や指導の徹底が図れていない。 - 異学年交流の実施等により、他者への思いやりや協力することの大切さを実感できている児童の割合が増えてきている。 - 休憩時間に外遊びをする全体的に児童は多いが遊ぶ子と遊ばない子の二極化がある。また、運動に取り組む意欲が高い。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～12月)	達成状況（年度末）	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	授業改善	子どもが主体のわかりやすく楽しい、協働できる授業づくり	● 子どもが自ら問いを見つけ、学習のめあてに対して、「わかった。できるようになった。疑問に思った。」などと表現できる児童の育成 ・既習学習を生かす・ワークシートの研究	肯定的評価 80%以上で A 肯定的評価 50%以下で C	堺市学調 深阪っ子アンケート 学習ノート ワークシート ポートフォリオ	2 学期 3 学期	B 子どもが自ら問いを見つけられているか、学習のめあてに対してどうであったかを表現できているかについて、肯定的評価は約 71%であった。今後も児童が主体の授業づくりを継続し、自分の思いを表現できる力を伸ばしていけるような実践をしていく必要がある。ワークシートについては、80%の学習の助けになっていると答えており、研究の成果が表れている。	A 2 学期末に実施したアンケート結果より、問①～⑥について 1 学期よりも肯定的意見が増加した。年間を通して「学習の見通しを持たせる」「振り返りを行う」と言った授業形態を継続してきたことが定着しつつあると考えられ、児童も実感している様子が伺える。80%には届かない項目もあったが、教師のねらいとする学習が年間を通して実践できた。	A 全体的に落ち着いて学習に向かっていた。授業の中身や児童の興味を引くような工夫が学習参観で見られた。パソコンの利用や地図記号かるた、新しいクラスでの自己紹介の方法などを実践していて、児童が授業を楽しんでいた。グループ活動も取り入れており、子ども同士がつながり、協力しながら課題に取り組めていた。
			● 児童と授業後のゴールの姿を共有し、学習の見通しを持ち、協働できる授業の実践 ・研究授業「知識・技能 思考力判断力表現力、学びに向かう力・人間性等」の評価の明確化 ・指導と評価の一体化	肯定的評価 80%以上で A 肯定的評価 50%以下で C	堺市学調 深阪っ子アンケート 学習ノート ワークシート ポートフォリオ	2 学期 3 学期	B 授業後のゴールを学習計画として児童に見える形で掲示している。そのことで約 76%の児童が見通しを持って授業に参加できている。今後も続けていきたい。また、友だちと力を合わせて学習できたと答えている児童は 91%になり、つながりを大切にした協働的な学びが実践できてきていると感じる。	B	
	カリキュラムマネジメント	①国語科「書くこと」を基盤とした、生活総合的な学習の教科横断学習での探究の学び ②自己表現を実現するためのカリキュラムマネジメントの実践	● 国語科における学習言語の習得 ● 「書くこと」の系統表を活用した指導 ・読書習慣の定着と本に触れる機会を増やす	肯定的評価 80%以上で A 肯定的評価 50%以下で C	堺市学調 深阪っ子アンケート 学習ノート ワークシート ポートフォリオ	2 学期 3 学期	B 国語の学習言語の習得の一つの方法として、教科書巻末にある「言葉の宝箱」を各学年で活用している。現段階で言語の習得に対して 81%の肯定的評価があり、効果が仕始めていると思われる。今後も継続していきたい。「書くこと」においては、学年の系統性を持った指導に取り組んでいる。読書の習慣は 61%の定着しか見られず、本に興味をもち本に触れる機会を増やしていく必要がある。	B 2 学期末に実施したアンケート結果より、問⑦で肯定的意見が増加しており、学習言語の習得に関する成果が表れている。読書については数値に大きな変化はなかったが、学校図書館の電子化を機に、蔵書の入れ替えや学校司書との連携など読書習慣の醸成を強化してきた。また、生活科・総合的な学習において「小松菜プロジェクト」など探究の学びを進めることができた。	B 廊下に 1 年間の活動の流れを張り出している学年があり、めざす活動がよくわかって良いと感じた。 読書習慣の定着については、本の購入だけではなく、環境面も整えていく必要があるのではないかと感じる。 カリキュラム・マネジメントや「小松菜プロジェクト」などの具体的な取り組みについてわかりにくい点があった。
			● 児童主体の探究を重視した課題解決型学習や体験学習を取り入れた実践 ・カリキュラムマネジメントの見直し・改善	肯定的評価 80%以上で A 肯定的評価 50%以下で C	堺市学調 深阪っ子アンケート 学習ノート ワークシート ポートフォリオ	2 学期 3 学期	B 生活科総合的な学習では、各学年工夫を凝らした教科横断学習に取り組んでいる。様々な体験を通して 76%の児童がまとめや成果を自分なりの表現で表すことができるようになってきた。しかし、課題解決の際、疑問を持ち自分なりに考え解決しようとする力の弱さが見られた（68%）。カリキュラムマネジメントの見直しを行い ICT も活用して児童主体の探究の学びとなるよう改善していく必要がある。	B	
豊かな心・健やかな体	人権教育・生徒指導	【人権教育】 自他を認め尊重して、つながる子の育成 【生徒指導】 よりよく生きる子の育成	●自分のよさに気づく自尊心の育成 ●課題を対話で解決する人間関係力の育成 ・言葉を増やす取り組み	肯定的評価 80%以上で A 肯定的評価 50%以下で C	堺市学調 深阪っ子アンケート	2 学期 3 学期	B 10 月、職員を対象に人権教育に対するアンケートを実施。結果より、「自分の気持ちを表す言葉を増やし正しく発信できる」「他者理解を進めよりたくさんの人と関わる」を目標に各学年で取り組みを進める。	B 2 学期末に実施したアンケート結果では、問⑫で肯定的意見が増加しており、自尊心の育成について児童の意識の変容が伺える。教員の振り返りの中でも低・中・高学年各々が発達年齢に応じ、道徳や教科指導、係や委員会活動の取り組みを通じて自尊心や人間関係調整力を育成に取り組んできた成果が表れていると考える。「人とのつながり（協力）」という点では取り組みの工夫が必要と考える。	B 道徳教育が重要であり、道徳教育に力を入れ、生きていく力の醸成や人間性を高める指導をしてほしい。そのことが、対話で解決できたり、人間関係力の向上につながっていくのだと思う。 トイレのスリッパがきちんと並べられていて、気持ちが良かった。委員会活動で作ったポスターなど、児童の自主的な活動が良い。
			●委員会活動、清掃活動などを通して、自分で考え、やりとげる子どもを育てる。 ●なかよし学級活動、児童会行事などの活動を通して、協力できる子どもを育てる。	肯定的評価 80%以上で A 肯定的評価 50%以下で C	堺市学調 深阪っ子アンケート 堺市学調 深阪っ子アンケート	2 学期 3 学期	B 全校朝会などの場で、クイズや劇を通して各委員会から情報を発信している。 B 休憩時間に 6 年生が鬼ごっこの参加を呼び掛けたり、学習の取り組みを他学年に発表するなどの異学年交流が行われている。	B 熱中症や寒さなど季節的要因に影響されることもあるが日常の遊びを通して基礎体力の向上をめざし、外遊びの奨励や意欲向上の取り組みに努めたい。基本的生活習慣については、家庭と連携して、望ましい生活習慣の必要性について今後も啓発していきたい。	B にこにこ大作戦を実施して、児童が安心して外で遊べる環境を作っているのは良いと感じる。ただ、必ずしも外で遊ばなくても、その子が過ごしたい場所で過ごすのもいいのではないかと。睡眠時間の項目をアンケートに入れると良いのではないかと。
			●外で元気に遊び、すすんで体をきたえる子どもを育てる・なわとびタイム、にこにこ大作戦	肯定的評価 80%以上で A 肯定的評価 50%以下で C	堺市学調 深阪っ子アンケート	2 学期 3 学期	B サッカーや鬼ごっこなど、休憩時間外遊びをしている児童の姿が多く見られる。	B	
	●★早寝・早起き・朝ごはん等基本的生活習慣の確立をめざした指導	肯定的評価 80%以上で A 肯定的評価 50%以下で C	堺市学調 深阪っ子アンケート	2 学期 3 学期	B 質問紙の回答より、毎日朝食を食べている児童の割合が全国平均を約 10%下回っているため、学習や遊び物などで啓発していく。	B			

独自課題	地域・学校間連携	① 学校・家庭・地域の協働	●家庭、地域の方々や事業所などと連携した学習・取り組みを行う	肯定的評価 80%以上で A 肯定的評価 50%以下で C	深坂っ子アンケート 学習ノート ワークシート ポートフォリオ	3 学期	A	9 月に自治会、PTA と共に「防災」をテーマに講演会や子どもつどいを共催した。また、普段の学習の様子をほぼ毎日 HP を通じて発信している。	A	今年度は公園の花植え、店舗への訪問、介護福祉施設やこども園との交流と地域の方々や多くの事業所と協働して学習活動に取り組むことができた。校区のことをより理解できるよう、更なる発展をめざしていきたい。	A	地域の公園での花植えは、地域との交流という面ではよかった。しかし、毎日の世話となると、難しい部分があったように思う。店舗への訪問や各施設との交流学习、防災教育の協働など、学校と地域とが連携した取り組みができていた。
		② 保幼小中連携の推進	●HP などによる情報発信 ●保幼小中の交流や学習での連携	肯定的評価 80%以上で A 肯定的評価 50%以下で C	深坂っ子アンケート 学習ノート ワークシート ポートフォリオ	3 学期	A	また、6 年生が近隣の 2 つのこども園に行き、遊びを通じて、交流を図った。	A		A	

校長より（年度末） 確かな学力について、今年度の取り組みにより自分自身が学びの達成感を実感している児童が増えている点、学校に行くのが楽しいと答えている児童が 9 割以上という点など成果といえる。今後、探究の学びに重点をおき、児童が主体的に楽しく学びぶ業づくりをさらに高めていきたい。またカリキュラムマネジメントの課題は来年度も継続し、児童がゆとりを持って教科横断的視点の教育課程を行っていく。今年度課題を残した人権教育・生徒指導教育については取り組みの改善を図っていく。
学校関係者評価者から（年度末） ・ICT を取り入れた授業が進んでいると感じた。 ・自治会、地域企業や幼児教育機関との交流が活発に行われていた。 ・家庭と連携し、児童の生活リズムの改善を図ることも検討してはどうか。 ・児童や保護者アンケートについて実施方法や結果の有効的活用に改善が必要と感じる。